

第 14 回杉並区清掃審議会 記録

日 時	平成 14 年 5 月 24 日（金） 午前 10 時 05 分から 12 時 12 分まで	
場 所	杉並区立産業商工会館 講堂	
出席者	委員	藤井会長、前田職務代理、石川委員、大橋委員、小澤委員、小池委員、本橋委員、内藤委員、松原委員、くれまつ委員、小川委員、とかしき委員（12 名）
	区側	環境清掃部長、清掃管理課長、ごみ減量担当課長、東清掃事務所長、西清掃事務所長、清掃事業所長
事務局	清掃管理課清掃計画係長、清掃計画係主査、清掃計画係主事	
傍聴者数	1 名	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般廃棄物処理基本計画構成（案） ② ごみ減量目標の設定にあたって ③ 東京都廃棄物処理計画 ④ 第 3 期杉並区分別収集計画（案） 	
議 題	<審議事項> 杉並区一般廃棄物処理基本計画の見直しについて	
発言要旨	別紙のとおり	

第 14 回杉並区清掃審議会 発言要旨

発 言 者	発 言 内 容
職 務 代 理	開会する。 (午前 10 時 05 分)
清 掃 管 理 課 長	本日の資料を説明願う。
事 務 局	—資料確認—
	資料「一般廃棄物処理基本計画構成（案）」について説明する。これまでの議論を整理しつつ、基本計画の構成をまとめたものである。まず杉並中継所の廃止を実現するうえでの重要課題を特定し、減量・処理システムに関する基本的考え方を示している。次いで計画の基本方針に基づき、設定した減量目標に向けた具体的な施策を提示するとともに、発生抑制計画や循環利用計画等の個別の計画について触れている。最後に計画推進のスケジュールを示している。次に資料「ごみ減量目標の設定にあたって」について説明する。杉並区のごみ量及びリサイクル率の推移、リサイクル量における行政収集量と集団回収量の内訳、一人一日あたりのごみ量の推移等を示している。減量目標を設定するにあたって、可燃ごみ・不燃ごみに混入している資源を徹底的に分別した場合のリサイクル率を試算している。過去 10 年間ほぼ一定の人口との関係では、同様にごみ量も横ばいであることが読み取れる。国全体の経済動向を示す指標である国内総生産（GDP）との関係では、ごみ量は必ずしも比例しているとはいえない。一人一日あたりのごみ量がここ数年横ばいであり、人口の伸びもほぼ横ばいとすると、杉並区における将来のごみ量はほぼ横ばいと考えられる。類似する他自治体のケースを参考として示している。
会 長	ご意見願う。
委 員	拠点回収している PET について、回収ボックスの容量と収集頻度をうかがう。
ごみ減量担当課長	拠点は現在約 300 か所あり、ボックスの容量は 70 リットル、収集頻度は週 3 回である。概ね 1 か所あたり年間 1.6 t 程度の計算になる。
委 員	区民発意事業を含め、これまでの審議を反映した、今後の計画の基礎になる部分が資料に示されている。答申後の区による具体的な計画案策定スケジュールについてうかがいたい。

環境清掃部長	区実施計画との整合作業があり、平成15年1月を予定している。新たに基本計画を策定するにあたっては、審議会による答申のほか、都廃棄物処理計画等を視野に入れている。
委員	中間処理計画について、資料にいうごみ処理施設の規模が「合意できる最小規模」とはどのような意味か。
会長	大規模のものを建設してしまうと、焼却自体が自己目的化してしまうおそれがあり、リサイクルの観点から問題がある。今後施設の建替え等にあたっては、区民参加の視点を必ず導入していくという意味であると理解している。
委員	同じ資料で述べている熱回収の推進と、「合意できる最小規模」とは矛盾するのではないか。現工場をそのまま設備を縮小するというのであれば理解できる。
会長	次回施設の方式について専門的な議論をしたい。工場のあり方を考えるうえでは、清掃事業が18年度以降区に完全移管することを前提としている。
委員	現行計画を見直すという以上、抽象的にリサイクルの推進を目指すという表現にとどまらず、リサイクル協会のあり方等を含めた具体性のある提案をすべきである。
委員	杉並区として新しい提案をすることに同意する。諸外国と比較して日本が最も異なると感じるのは、有害化学物質に対する取組みである。市民が排出するにあたって専門家が立ち会ったりなど厳しい分別を行っている。中継所と密接な関係があると思われるので、区の答申や計画にも独自に盛り込むべきである。
委員	収集方法が排出方法を定める。排出方法を変えるためには、住民に理解してもらえるだけの理由付けや説得の努力が行政側に必要である。
委員	かつて公害問題を分析するなかから発達したもので、環境に問題を生じるような微量な物質の流れを把握する手法がある。杉並区については、ごみ量全体から見たときの乾電池の量は意味がないほど少ないといえるが、逆に最終的に環境にとって問題になりそうな側から洗い出していく分析が有益であり、受け皿を用意する意味でも必要である。このような視点を審議会として提案すべきである。
委員	中継所問題との関係からも、答申で触れる必要があるのではないかと。
環境清掃部長	中継所問題に関する国の裁定が本年6月に予定されている。原因施設であるかどうかにか

<p>委員 ごみ減量担当課長</p>	<p>かかわらず、中継所を廃止するのが区長の方針である。</p> <p>集団回収に関する問い合わせが増えており、今後力を入れていく必要がある。</p> <p>平成 15 年度からの分別収集計画について説明する。5 か年計画で 3 か年ごとに見直しを図り、今回が第 3 期の計画である。PET は、行政施設の回収拠点を増やすことと、現在ごみに混入している分を今後分別してもらうことにより、年間 600 t を見込んでいく。PET 以外のプラスチック容器包装については、昨年度のモデル事業を踏まえ、今後の事業では品目を特定していくとともに、世帯数を拡大する予定である。あわせて中間処理施設やストックヤードの可能性も探っていく。</p>
<p>委員 環境清掃部長</p>	<p>モデル事業の実施目的や結果の分析等については、今後の審議会で議論したい。</p> <p>今回の答申を受け、第 2 期以降の審議会ではより具体的な施策に関してご審議いただく予定である。</p>
<p>会長</p>	<p>次回は 6 月 6 日、次々回は 6 月 25 日の開催を予定している。</p> <p>会議を閉じる。</p> <p style="text-align: right;">(午前 12 時 12 分)</p>